令和６年度　算数　授業改善推進プラン

大田区学習効果測定　結果の分析

４年生…校内平均正答率が目標値・区平均・全国平均を下回った。基礎・活用において目標値・区平均・全国平均を下回る。問題内容別に見ると、「円と球・三角形」「長さ・重さ」について特に大きく目標値を下回っている。「大きい数と小数・分数」については目標値に達しているが、それ以外の内容については、目標値に達していない。

５年生…校内平均正答率が区平均を下回った。基礎において区平均・全国平均を下回る。活用においては、目標値・全国平均を上回るが区平均は下回る。問題内容別に見ると、「小数」「分数」「角の大きさ」「面積」「変わり方調べ」「折れ線グラフと表」については目標値に達しているが、それ以外の内容については、目標値に達していない。

６年生…校内平均正答率が目標値・区平均・全国平均を下回った。基礎・活用において区平均を下回る。問題内容別に見ると、「分数の計算」「小数の計算」「面積」「立体と体積」「割合」「円グラフや帯グラフ・平均」について特に大きく目標値を下回っている。それ以外の内容についても、目標値に達していない。

【観点別正答率の分析】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
４年生と６年生の正答率は目標値を下回っている。 ４年生は、数直線上に示された分数を読み取る問題、４けた－３けた＝（波及的繰り下がりあり）の計算、円の半径について、理解しているかの問題で正答率が低い結果となり課題が見られた。 ５年生では、小数第二位÷整数＝小数第二位（商が純小数）の計算や四則や（　）の混じった式の計算順序の問題で、正答率が低い結果となり課題が見られた。 ６年生では、5.01 を分数に表す問題や 14 と 21 の最小公倍数を求める問題や 7/12＋3/4 で片方の分母にそろえる通分をする計算や高さが図形の外にある三角形の底辺と高さを読み取り、面積を求める式を求める問題や台形の面積を求める問題や一辺が３㎝の立方体の体積を求める式や速さと道のりから、時間を求める問題や比較量と割合から基準量を求める問題で正答率が低い結果となり課題が見られた。	各学年とも正答率は目標値を下回っている。 あまりのある除法と余りを基にあまりの処理をして正しい答えを求めている文章問題、25×６の暗算の仕方を説明する問題や余りを切り上げて処理する問題ができ、その理由を説明する問題で正答率が低い結果となり課題が見られた。 ５年生では、分配法則を使う問題で、正答率が低い結果となり課題が見られた。 ６年生では、小数の乗法の式に合った文章問題「1mの重さが３０ｇの針金があります。この針金 1.5mの重さは、何ｇですか」を選ぶ問題や整数×小数の計算の方法をもとにして、小数×小数の計算方法を、整数のかけ算の計算の仕方をもとにして説明する問題や与えられた情報を読み取り、基準量と割合から求めた比較量を比べ、発言が正しいかどうかを判断し、そのわけを説明する問題で 正答率が低い結果となり課題が見られた。	各学年とも正答率は目標値を下回っている。 ４年生は、二等辺三角形を作図する問題や２つの時間の間の時間を求める問題、身近にあるものの重さの単位について理解しているかの問題、棒グラフを正しく読み取り、１メモリの大きさに着目して説明する問題から数量を読み取る問題で正答率が低い結果となり課題が見られた。５年生は、平行四辺形の作図の問題や伴って変わる２つの数量の関係を式に表して、その式を使って一方の値からもう一方の値を求める方法を説明する問題や１目盛りの大きさが違う２ つのグラフをもとに、間違いを指摘する問題で正答率が低い結果となり課題が見られた。６年生では、合同な三角形を作図する問題や整数÷小数の計算をもとにして、小数÷小数 6.4÷0.32 の計算問題や基準量と割合から比較量を求める問題で正答率が低い結果となり課題が見られた。

課題<今回の調査結果から>

〇知識・技能に対しては、基礎・基本をきちんと定着していけるように、東京ベーシックドリルを活用して児童の学習の定着状況を把握していくとともに、児童の習熟の程度に応じて、補充学習・発展学習等に取り組ませていく必要があると考える。

〇４年生は、「円と球・三角形」「長さ・重さ」５年生は、「わり算」「いろいろな形」、６年生は、「分数の計算」「小数の計算」「面積」「立体と体積」「割合」「円グラフや帯グラフ・平均」など、各学年で苦手な傾向が異なっているので、焦点を絞って、補充学習を行い、練習問題にも繰り返し取り組んでいく必要がある。

〇結果の分析から計算の仕方や意味を説明する力をつける指導をしていく必要があるよう。

〇授業で学習しているときはよく理解できているように教師も児童も感じる場面も多いが、その単元の学習後、しばらくすると解き方や考え方を忘れてしまうことがある。定着を図るために、タブレットのドリル学習を活用して習熟を図ったり、日頃の家庭学習で学習を振り返ったりする機会を設ける。

〇自分の考えをノートに書いたり、発表したりして表現することについては積極的でない児童も見られ課題があると考えられる。調査結果からも記述式の問題においては無回答の児童が多いものも見られ、基礎・基本の定着とともに、主体的に取り組む態度を育てていくことも課題となる。教材の工夫や環境づくり、学習過程等の工夫を行いながら指導をしていく必要がある。